

営農指導員の

ワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 謙

春からの収穫に向けて欠かせない冬越し野菜の管理

種まきや植え付けを秋に行い、じつと寒い冬を越して春以降に収穫期を迎える冬越し野菜。収穫量・品質のアップを目指すなら、冬の間の管理は欠かせません。

今回は冬越し野菜の管理方法を紹介します。

霜や雪、風から守る

エンドウやソラマメなどの豆類、そして春キャベツなどは比較的寒さに強い野菜と言えます。しかし霜や雪、冷たい北風に当たると枯れてしまう場合があります。そのため防虫ネットや不織布でトンネルを作ったり、苗帽子をかぶせたりして、保温をしてあげましょう。これらは保温だけでなく、害虫や鳥からの被害も防ぐことができます。

枯れ葉取りと除草

タマネギやイチゴなどは前述の豆類よりも、さらに寒さに強い野菜です。トンネルや苗帽子などの防寒は必要ありませんが、寒さの影響で葉の一部が枯れることがあります。これらの葉をそのままにしておくと病害虫を発生させる原

因となってしまうので、見つけたら小まめに取り除きましょう。

また寒い時期でも雑草は生えてきます。雑草は大切な畑の養分を奪い取るので、見つけ次第取り除きましょう。

肥料を施す

冬の寒さで土の上では枯れているように見えても、土の中では根が生きていて、生育に適した時期が来ると再び発芽する植物を宿根草と呼びます。ニラやミョウガ、アスパラガスなどがこれに当たります。

宿根草は冬の間に根に栄養分を蓄えさせることが大切です。地上部が枯れた後は、きれいに刈り取り、牛ふん堆肥などをまいておきましょう。そうすることで宿根草は元気に育ちます。

冬の間は手間いらずの野菜も！

ニンニクやラッキョウなどは寒さに強く、地上部の成長を止めて春の訪れをじつと待つ野菜です。冬の間は特に管理する必要はありませんが、暖かくなり再び成長を始めると養分を必要とするため、2月下旬から3月中旬ごろに化成肥料などの追肥をしてあげましょう。

問い合わせ

農業振興課農業振興係
0824・73・1131

庄原が好き

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新魅力を発見することで、人を、まちを、もっと好きになりますように。



鍼灸師として総領町に
Uターンした
小林 一枝さん

総領町出身で、鍼灸師として活躍している小林さんに話を伺いました。

鍼灸師として

私は総領町で生まれ育ち、高校卒業後は、鍼灸師になるため香川県の専門学校に進学しました。鍼灸師の資格を取得した後は、そのまま香川県で就職し、鍼灸の中でも「経絡を専門とした治療法※」の先生と出会い、助手として経験を積みました。

その鍼灸院は3年経ったら独立する決まりがあったため、今後の仕事に悩んでいたとき、父が三次市にある土地を紹介してくれました。不安もありましたが腹をくくり、平成29年5月に庄原市に帰って開業することを決めました。今は毎日、総領町から三次市へ通う生活をしています。

開業して6年目になりますが、患者さんと一対一で向き合い、その人に一

番合う治療を目指すこの仕事は、自分にとっても向いていると思います。治療をしていると自分の力不足を痛感し、落ち込んだりすることもありますが、それを乗り越えると楽しさや、やりがいがあるので頑張ることができます。

地元の皆さんに支えられて

総領町へ帰って2年が経った頃、小学生時代の先生から出張治療ができないかと相談されました。地元の方々からも「総領自治振興センターでやってみたら」という提案をいただき、月に1回の出張治療をすることになりました。その時には、総領自治振興区の通信にも掲載していただき、地元の方々が本当にいろいろなサポートしてくださいました。出張治療は約2年半続きましたが、現在はコロナ禍で中断となっています。

鍼灸は「痛そう」「熱そう」のイメージが強いのですが、私はそれを丁寧な説明と気持ちのいい治療で変えていき、東洋医学を身近に感じてもらいたいと思っています。

問い合わせ

自治定住課定住推進係
0824・73・1257

※全身の循環を良くして、体のバランスを整える治療法。